

HDS025-15

会場:103

時間:5月22日 14:45-15:00

ブータンでの GLOF 防災のための社会調査 A social survey for GLOF disaster mitigation in Bhutan

竹中 修平^{1*}, 佐藤匡史¹
Shuhei Takenaka^{1*}, Tadashi Satoh¹

¹ (株)地球システム科学
¹Earth System Science Co.,LTD.

JICA/JST「ブータンヒマラヤにおける氷河湖決壊洪水に関する研究」の一部として、2010年5月、ブータン中部において氷河湖決壊洪水（GLOF）に対する防災意識および対策についての社会調査を行った。

調査地域は本研究の対象地域であるマンデチュー（「チュー」は「川」の意）と、その両隣のプナサンチュー、プムタンチュー流域の、GLOFによる被災が危惧されるコミュニティである。調査では地方行政機関、学校、地域住民に対して、それぞれ異なる内容の質問表を用意し、聞き取り（アンケート）を行った。質問内容は、人口、防災に対する基本方針、情報伝達体制（地方行政機関のみ）、収入、携帯電話等通信手段の有無（地域住民のみ）などの基礎社会情報、災害履歴、防災知識、他援助団体の活動等である。

その結果、地域住民の GLOF 災害に対する認知は全般的に高く、不安を抱いていること、しかし防災教育や対策が不十分であり、現在のところ十分な連絡体制も整っていないことがわかった。特にマンデチュー下流のブータン南部地域では、平均的に住民の収入が低く、ラジオや電話など情報を得る手段の保有率が低い。また防災に寄与する道路や通信網など社会的インフラの整備も遅れている。一方、1994年の GLOF で被災したプナサンチュー流域のプナカやワンデューでは他地域と比較して、行政・住民とも防災意識が高く、災害時の情報連絡網も整っている。

キーワード: ブータンヒマラヤ, 氷河湖, 洪水, GLOF, 防災, 社会調査

Keywords: Bhutan Himalaya, glacial lake, flood, GLOF, disaster prevention, social survey